

## AQURE POC IT ソリューション導入による血液ガス分析装置一元管理について

◎松澤 春<sup>1)</sup>、大城 雄介<sup>1)</sup>、稲村 奈津美<sup>1)</sup>、根本 岳資<sup>1)</sup>、田中 暁人<sup>1)</sup>、荘司 路<sup>1)</sup>、小関 満<sup>1)</sup>  
国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院<sup>1)</sup>

【はじめに】当院では検体検査室、救急外来、手術室、病棟等で血液ガス分析装置が運用されているが、複数のメーカーが混在していたため、適切な装置管理、精度管理、試薬消耗品管理について問題を抱えていた。そこでラジオメーター社 AQURE POC IT ソリューション（以下 AQURE）および ABL 90 FLEX PLUS を導入することにより院内血液ガス分析装置の一元化を行った。今回、導入による効果について報告する。【方法】既に手術室に設置されていた ABL 800 FLEX を除く全ての装置 9 台を ABL 90 FLEX PLUS に置き換え、AQURE と接続した。試薬消耗品は SPD で中央管理とした。日常点検は検体検査室で従来から使用していた記録様式を院内全体で使用することとした。精度管理結果は AQURE で集中管理し、装置に異常がある場合は直ちにリモートアクセスシトラブルシューティングできる体制とした。【結果】AQURE により院内全ての装置状態を監視できるようになり、他部署で発生したトラブルに迅速に対応できるようになった。AQURE は重症・急性期患者情報システムとも連携しており、ベッドサイドに

において即座に測定結果を確認できる運用を可能とした。装置を ABL 90 FLEX PLUS に統一したことにより、機器特有の事項に関する問い合わせに対しても適切な回答ができ、アドバイスサービスの質向上を図ることができた。また、試薬消耗品の管理が容易となり適切な在庫管理が可能となった。当検査部門は ISO15189 を取得しており、それに準じた日常点検記録様式を用いることで、院内で統一した点検実施が可能となった。これにより、他部署からは日常点検をいつどのようにすればいいのか明確になった、と好評を得た。さらに、全ての装置の精度管理結果は AQURE を通じて確認が可能となり、使用している試薬のロット管理、試薬の交換履歴も参照可能となり、精度管理の質向上を図ることができた。現在では、検査部門内の精度管理委員会にて全装置の精度管理状況を定期的にレビューしている。

【まとめ】AQURE の導入と分析装置の統一化による血液ガス分析装置の一元管理により、業務の省力化、効率化が可能となった。国立国際医療センター病院：03-3202-7181